

田原町立田原福祉専門学校後援会機関紙

たつぷく だより

No. 2

編集発行 平成 11 年 3 月 31 日
田原町立田原福祉専門学校後援会
会長 川 澄 春 男



専門学校のホップステップ

ジャンプを期待して

校長 西 三郎

社会から福祉の充実への期待が高まるなか、介護保険制度の発足を控え、その中核となる人材養成を担当する福祉専門学校の役割がますます重要になってきています。

この様な重要な時期に、田原町立田原福祉専門学校の校長をはじめ幹部が交代したことは元校長として申し訳なく思っています。しかし、田原町当局、学校後援会を始め町民各位、関係機関の絶大なご支援により、専門学校として社会的にも評価されるようになりました。お陰様で、教員の質量ともに整備され、教育内容も充実し、その現れとして新入生の応募状況、卒業生の就職状況も順調に発展し、先ずは第一段階の目標が一応達成されたものと思えます。

このような段階に安住することなく、さらに飛躍的な発展向上するには、社会の要請を真摯に受け止めることができる優秀な人材が校長として着任され、心新たにしっかりと指導賜ることが、この学校の発展にとり重要なことと確信いたしております。後援会の方々のますますのご支援を期待しています。

教員人事異動

平成十一年三月三十一日付で、平成八年四月の開校以来、田原福祉専門学校の礎を築いてくださいました西三郎校長をはじめ五人の先生方が退職されました。

また新たに四月一日付で川添登校長をはじめ六人の先生をお迎えすることになりました。

退職

校長 西 三郎(東海大学大学院教授)

副校長 露木悦子(世田谷区立芦花ホーム所長)

教務課長 山田健司(群馬松嶺短期大学専任講師)

非常勤講師 宮崎鎮雄 小野 隆

校長 川添 登

教務課長 長谷川彰

非常勤講師 古林淑子 石原和子

岡本浄実
実習助手 山田康代

なお、退職の西校長、副校長からは退職にあたってのメッセージが届けられており、西校長の退任あいさつは一ページに掲載しました。
露木副校長は、三年間の教育された中でお話になられたことをこの三月に「心にひびく共感のアプローチ

……介護の心を「聴くこと」に求めて……」を執筆され退任の挨拶にえられました。この本は今期の卒業生にも先生から記念品として贈られました。マイナスの人間、プラスの人間と種々様々な人間がいる中で、介護福祉士にとって「聴く」ことがいかに大切か、退任にあたりあらためて話されました。

専門学校卒業生 大学三年次編入学が可能に

学校教育法の一部改正に伴い、本校を卒業すると、大学の三年次に編入学できるようになりました。



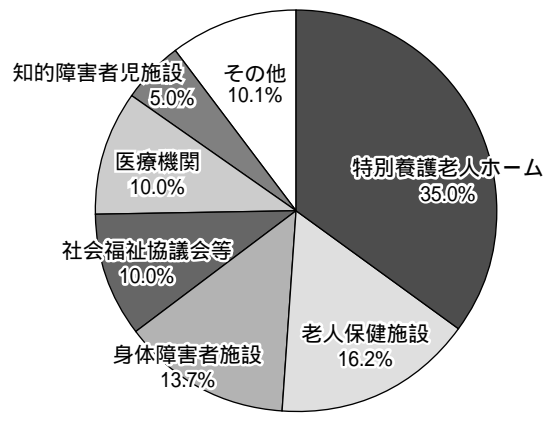
三年次編入に該当する専門学校は

専修学校の専門課程で文部大臣の定める基準である修業年限一年以上で、かつ課程の修了に必要な総授業時数千七百時間以上を満たす学校となっています。

本校においてもこの四月から福祉系大学の三年次に編入学する学生がはじめて出ました。

平成 11 年 3 月卒業生の進路

就職先の主な種別は、特別養護老人ホーム、老人保健施設などの高齢者施設に52.5%、障害者施設に18.7%、社会福祉協議会に10.0%、医療関係に10.0%等となっており、詳細は下表のとおりで、高い就職率を示しました。わずかですが大学等へ進学した学生もいます。



ホームヘルパー養成の ための別科を新設

在宅福祉対策の拡充が重要な課題となる今日、介護福祉士を養成する本校において平成十一年度からホームヘルパー養成のための別科を新設することとなりました。

ホームヘルパー科は、教育社会福祉専門課程を持つ専門学校の正規の授業に該当しないものですが、専門学校に支障のない範囲で附帯教育事業として別科を設け、ホームヘルパー養成のための授業を行うも

コースは、三級(ホームヘルプサービス事業入門コース)と二級(ホームヘルプサービス事業に従事するのに役立つ基本コース)があります。全科目修了すると認定の修了証を交付します。

なお、介護福祉学科の学生は、本校を卒業すれば介護福祉士の国家資格を取得することができます。介護福祉士はホームヘルパー一級課程免除となっていますので改めてホームヘルパーの認定を受ける必要はありません。

詳細は本校庶務課までお問い合わせください。

(田原福祉専門学校)

職場

訪問

みんな、がんばってます！

田原町社会福祉協議会・蔵王苑・老健あつみを訪問し、それぞれの職場で活躍する卒業生（一期生）の方々にお話を聞いてきました。

田原町社会福祉協議会では、香川鈴代さん、内角優子さんのお二人に会いました。

ホームヘルパーの仕事をしていません。一日に訪問する家は、平均して五、六軒かな。

仕事の中味は、高齢者、独居老人、障害者の方などへの生活支援ということですが、部屋のお掃除もしますし、入浴の介護もしますし、時には、買い物のお手伝いもします。

家族と対象者の意見が違った時など、間に入って、どうしたらよいか悩むこともあります。

家族のできることを、ヘルパーがしてあげなければならないことの調整は、むずかしい問題です。

学校の勉強は、基本を学ぶこと、現場は、その応用ですが、日々の精進の中で、自分の力量を高めていくことしかありません。

私なんかまだまだ未熟者ですが、お年寄りが、孫が来たと言って待っていて下さるのは、うれしいです。相手の方の笑顔に接する時が、何

よりの喜びです。

休日でも「あのおばあちゃん、ごはん食べたかな、あのおじいちゃんもう静かに眠ったかしら……」気になるんですね。だから、精神的には休日ではないんです。

これは、後輩の人たちには是非言いたいことなんです。自分なりの特技を一つ身につけておくといいと思います。例えば、カラオケ、マ



午後の訪問に出発する香川さん(右)、内角さん(左)

ジック、ダンス……等、人の前で、人を楽しませることができるものがあるといいと痛切に思います。

話し終えるとすぐ、二人は、ふれあい号に乗って、午後の訪問先へとび出して行きました。

蔵王苑では、昼休みを利用して、佐藤佳令さん、佐藤三智子さん、高瀬雅代さん、小林佳美さん、空閑いづみさん、尾藤美奈さん、細田慈信さん、石田房枝さんの八人の方が集まって、話を聞かせて下さいました。

私は、デイサービスの仕事をしていますが、利用者の希望をどこまで入れてあげるか、わがままを聞いては、後で家族が困ることになるし、その見極めがむずかしいですね。これがベストかなあといつも悩みます。人と接することのむずかしさを感じます。

仕事のこつをつかんだから、一年たつて仕事は楽しくなった。しかし、人と接することの大変さを実感しています。

どんな仕事も肉体的には大丈夫です。入所者への支援のしかた、何でもやってあげたら自立度が低くなってしまうし、そこがむずかしい。



「さあ、入浴です。」車椅子への移動の介助 - 細田さん -

こつがつかめて、肉体的には楽になった。だが、精神的には、まだまだ成長しないと……。

相手が分かってくれた時は、うれしい。大ぜいの中で、自分の名前を呼んでくれた時は、ああ、頼りにされていると思えて希望が湧いてくるよつです。

くそまじめではいけない。相手が心を開いてくれない。たわいのない話から、信頼関係ができていくこともある。

ことばづかひにも行動にも気をつかいます。ちよつとしたことで誤解を招くこともあります。デイサービス

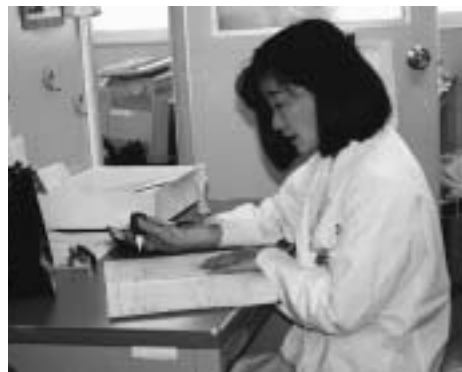
(次ページへつづく)



ふとんやシーツの交換も介護員の仕事 - 秋本さんと大崎さん -

入居者、そのままこの施設の評価を家庭や社会に持ち帰るようなところがありません。気を付けなくてはなりません。
わたしたちの笑顔が、入居者の方の笑顔を引き出します。毎日、さわやかな笑顔で頑張りたい。
基本はやはり大切。学校で学んだ基本の上に、毎日の仕事を積み重ねて、自分なりの応用篇を作っていくことだと思っています。
何といっても、こうした職場では職員チームワークが大切だと思います。同じ職種の中はもちろんだ、違った職種間の連絡・調整も不可欠です。私なりに努力して、よい施設、

明るい職場といわれるように頑張つて、この仕事を続けたい。



電話の対応、書類の作成
- 白衣が似合う渥美さん -

この時間にも、他の介護員のみならず、入居者への対応に追われ、忙しい。

しく立ち働いていました。福祉専門学校卒業生たちは、どこでも、本当によくやっているという印象を受けました。

電話での対応もありますが、外へも出ます。家庭へも訪問して、介護の仕方などを指導したり、相談にのったりします。

人との仲介の仕事が多いので、正確に伝える、約束を守ることが大切です。

制度や法律上の知識等をマスターすることも要求されますし、時には医療の知識が必要だと実感することもあります。

行政との連携、他の施設との連携が大切、的確な対応と連携プレーが重要なことですね。

「粉」と読みます。珍しい名字です。高校の時から、「ここへは、ボランティアで来させていたでいていました。こういうところで働くことが、夢だったものですから、すこく幸せです。働きがい、生きがいを感じています。

ケア・ワーカーとして、お年寄りのお世話をしています。中学校時代ソフトボール部で鍛えられましたか



笑顔、笑顔.....
- 粉さんの笑顔が、元気の源 -

ら、体には自信があります。夜勤もありませんが、先輩や同僚がみんないい人ばかりなので、毎日が楽しいです。

学校では基本を勉強しましたが、現場へ出てからは、その応用です。まだまだ、これからです。

あとがき

今回も、諸般の事情で発行が遅れたことをお詫びします。

特集の「職場訪問」は、広報委員会の話し合いにより林が取材に回り、聴取してきた話を文章化したものです。文責は林にあります。

広報委員会

渥美知づるです。私は、正確にいうと、老健「あつみ」の中にある、「渥美郡在宅介護支援センター」の仕事をしています。
仕事の内容は、介護相談、生活相談、訪問指導、介護教室等いろいろです。